

発達障がいというけれど...

発達障がいのある人たちが、実際に生活をする上で、どんな場面で誤解されたり、トラブルになってしまうのか見てみましょう。



タイミングがわからない



困ったときの解決方法を事前に伝えたつもりでも、本人は、伝えるタイミングが分からずに困っていることもあります。

「誰に」「どのようなタイミングで」「どういう風に」尋ねるとよいのかを、できるだけ具体的に、事前に伝えると安心できます。メモなどに書いておくことも、いざというときに有効です。

非常識な行動?



その時の状況や雰囲気を見て、柔軟に行動することが苦手です。本人としては、決められたルールに沿って行動していて、悪気はありません。

暗黙の了解事項についても、「時間をすぎても全て終わるまで」「帰るときは〇〇さんに確認してから」など具体的なルールとして明確に伝えておくことで、気持ち行動できます。

人付き合いが悪い?



とりとめのない雑談、興味のない事柄についての会話など、明確な目的のない会話が苦手な場合があります。

婉曲的な言い方が苦手で、直接的な表現になってしまうため、人付き合いが悪いように感じられることがあります。時には、休憩時間は、1人で過ごす方が落ち着くこともあります。

物事は計画的に



一定のパターンで何かに取り組むことは得意ですが、柔軟に思考を切り替えることは苦手なため、急な変更や突然の出来事にうまく対応できないことがあります。

事前に予告してもらえると助かります。

どっちが優先?



内容の重要性や頼んだ相手の意図をくみ取って、仕事の優先順位を判断することが苦手です。

順序立てて指示されると、確実にこなしていくことができます。

聞いて理解するより見て理解することが得意なため、メモや指示書は大いに助かります。

言ってくれなきゃ?



「気が利かない」「融通が利かない」わけではなく、その場の状況や会話の流れなどから読み取ることが苦手です。そのため、「お鍋見て」と言われて文字通り「見る」だけになってしまったり、見てどうするのかかわからずに混乱したりします。「グツグツ煮えていたら、火を止めて」というように具体的に伝えることで理解し、行動することができます。

理解から始まる支援

発達障がいがある方の感じ方や理解の仕方が周囲の人と違うので、周囲から誤解されてしまったり、トラブルになってしまったりすることがよくあります。

周りからは「困る人」と見られがちですが、本当は「困っている人」という周囲の理解が必要です。周りの人が障がいの特性を共通理解することから支援が始まります。

みんなは平気?



外界の情報の中から必要なものをうまく選択できないために、周囲のさまざまな音が聞こえうるさく感じたり、視野に入るものに、あれこれ気が取られたりすることがあります。

刺激を少なくすることで、集中して作業に取り組めます。

“できる”工夫で長所を活かす

苦手なことでも、周囲の理解と、特性に合わせた工夫をすることで、その人の良さを発揮することができます。

発達障がいのある人の良さ

- 常識にとらわれないユニークさ、新しい発想力
- 細かなルールを守る生真面目さ、几帳面さ
- 日付や数に対する正確さ、記憶力のよさ
- 興味あることへの熱心さ、集中力、ねばり強さ などほかにもたくさん

なるほど！
日常の何げない場面で
ずいぶん苦勞してるんだね



福岡市在住の発達障がいのある方の相談窓口です

ゆうゆうセンター

福岡市発達障がい者支援センター TEL092(845)0040 FAX092(845)0045
〒810-0065 福岡市中央区地行浜2-1-16 福岡市発達教育センター2階